

ラ・カニャーダ・フリントリッジ市の皆様へ

ラ・カニャーダ・フリントリッジ市の皆様、東京都三鷹市長の河村孝です。

このたび、副市長の土屋宏をはじめとする三鷹市訪問団が、ラ・カニャーダ・フリントリッジ市を訪問しております。両市の新たな友好関係を築く大切な機会にあたり、皆様にご挨拶申し上げたく、このメッセージを託しました。

まず、このたび訪問団を温かくお迎えいただきましたキム・ボウマン市長をはじめ、市議会議員の皆様、姉妹都市協会の皆様、そして市民の皆様に心より感謝申し上げます。また、NASA ジェット推進研究所の見学をはじめ、貴重な機会をご用意いただいておりますことを、ありがたく思っております。

三鷹市ではこれまで、市内に暮らす外国籍市民の皆様との交流を通じて、様々な国や地域の違いへの理解を深めながら、多文化共生のまちづくりを進めてまいりました。そのため、特定の国や都市との交流は行ってきませんでした。

そのような中で、このたびラ・カニャーダ・フリントリッジ市から姉妹都市締結に向けたご提案をいただいたことは、三鷹市にとって国際交流の新たな一歩であり、大変意義深い機会であると考えています。

私が今回の姉妹都市交流に期待を寄せているのは、両市が平和を大切にするという共通の思いを持っていると感じているからです。

三鷹市には、かつて軍需工場があり、その歴史を伝える戦争遺跡や戦争の痕跡が今も残されています。私たちはそれらを調査・保存しながら、平和の大切さを次の世代へ伝える取り組みを続けています。

また、三鷹市を代表する井の頭恩賜公園も、戦時中に大きな影響を受けました。園内の杉の木は、空襲で亡くなられた方々の棺を作るために伐採され、公園は一時、荒涼とした姿になったと伝えられています。しかしその後、多くの人々の努力によって公園は再生され、今ではたくさんの人々が集う憩いの場となっています。その姿は、平和の尊さを私たちに伝えてくれます。

今回、皆様がデスカンソ・ガーデンズと井の頭恩賜公園との共通点に着目してくださったのは、大変うれしいことです。デスカンソ・ガーデンズの日本庭園は、日本とアメリカが困難な歴史を乗り越え、相互理解と友情を育んできた歩みを象徴する場所でもあります。

私は、2つの公園に共通しているのは、過去の経験を未来につなげようとする人々の思いであり、その根底には平和への願いがあると考えています。だからこそ、両市の交流もまた、人と人との理解を深め、未来へつながる友好の架け橋になってほしいと願っています。

さらに、教育や学びの分野にも大きな可能性があります。

三鷹市には国立天文台をはじめとする研究機関が集まり、多くの市民が宇宙や天文学に関心を寄せています。一方、ラ・カニャーダ・フリントリッジ市には世界的に知られる

NASA ジェット推進研究所があります。宇宙や科学への関心という共通点は、今後の両市の交流を発展させる力になるものと期待しています。

また、子どもたちや若者たちの交流も重要です。互いの文化や歴史を学び、友情を育み、未来を担う世代が国境を越えたつながりを築いていくことこそ、姉妹都市交流の大きな意義だと考えています。

市民が学び合い、子どもたちが交流する、そうしたつながりこそが、未来の平和と友好を支える最も大きな力になると信じています。

三鷹市ではこれまで、公益財団法人三鷹国際交流協会が市民の国際交流や相互理解の取組みを支えてきました。私は、姉妹都市交流の原動力は市民同士の交流にあると考えています。今後は、三鷹国際交流協会とラ・カニャーダ・フリントリッジ市の姉妹都市協会の皆様が連携し、市民同士の交流の輪が広がっていくことを心から願っています。

行政がきっかけをつくり、市民が友情を育てる。そのような交流こそが、長く続く姉妹都市関係の礎になると確信しています。

三鷹市としては、正式な姉妹都市締結に向けて、市議会や市民の皆様の理解を深めながら、着実に歩みを進めてまいります。両市が共有する平和への願いと学びへの情熱を基礎として、長く続く友好関係を築いていきたいと考えております。

そして、デスカンソ・ガーデンズが象徴してきた日米の絆のように、両市の友情が、次の世代へ受け継がれる確かな架け橋となることを心から願っております。

結びに、皆様のご健勝と、ラ・カニャーダ・フrintリッジ市のますますのご発展をお祈り申し上げます。本日の出会いが、両市の新たな歴史の始まりとなることを願い、私からのご挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。

2026年7月吉日 三鷹市長 河村 孝